

「人肉検索」現象に関する研究

キョウ旭暁*

1. 問題の所在

「人肉検索」というのは、伝統的な情報検索エンジンと違い、特定の個人または事件について、人々の力を集め、より詳しい情報を手に入れるために行われる検索活動を指す。人肉検索の検索エンジンはコンピューターでなく、人の情報や知識で答えを探し出す。従って、人肉検索の検索主体は人である。日本語だと、「人力検索」と表現することができるかもしれない。

人肉検索で検索するのは便利である。さらに効率的であるため、多くの人はこの方法を好んで選択し、自分の課題を解決しようとする。一方、人肉検索を利用することで、他人の個人情報に侵害し、不正な利益を得る事件が数多く起こり、世の中に深刻な影響を与えた。男性の浮気行為から、政治家の収賄事件まで、様々な人肉検索活動が展開され、人権侵害事件も多数起こっている。

実名認証がまだ普及しておらず、法律がまだ不完全で、人々の人肉検索に対する意識レベルが低い現状の下、どんな事案、事件でも人肉検索される恐れがある。この便利で危険な人肉検索をどのように認識し、運用管理するかは大きな問題となっている。

2. 目的

本研究は事例研究とインタビュー調査研究の二部に分けた。

2.1 事例研究

人肉検索に関する典型的な事例を集め、分析し、情報収集力の変化およびそのプラス面とマイナス面を明らかにする。そしてそのマイナス面を回避し、人肉検索を事件解決の有効な手段として活用するためにはどのような方法が必要で、またどのように運用すべきかについて検討することを目的とする。

2.2 インタビュー調査研究

人肉検索事件の伝播者（依頼者）を訪問し、彼らの人肉検索に対する態度が事件前後どのように変わったか、人肉検索の参加経歴がどんな影響を与えたかを解明することを目的とする。

3. 方法と手続き

3.1 事例研究

KJ法を使って、2006年から2015年まで新浪微博、猫撲、天涯、騰迅、豆瓣網と他の地方新聞から収集した20件の人肉検索事件分類し、分析した。

3.2 インタビュー調査研究

人肉検索の伝播者（依頼者）を直接訪問し、イ

* キョウ キョクギョウ 総合政策研究科総合政策専攻博士課程前期課程修了

インタビュー調査を行い、伝播者（依頼者）の事件前後の心理変化と人肉検索によって受けた影響を解明した。

4. 結論とモデル化

4.1 結論

4.1.1 事例研究の結論

① 種類に関する結果

プラス面の悪人処罰型と公益型の割合は半分以上を占めている。また、マイナス面の私怨攻撃型人肉検索を減少させるためには、ネット空間にある情報の真偽を区別することが一番重要であることがわかった。

② 検索に掛った日数に関する結果

2013年以降の新浪微博を使った事例は、ほぼ1日以内に関係者が必要な情報を入手した。短時間内に情報を得た理由は、膨大なユーザー数、多種の情報伝播サービス、有名人、企業の実名制度である。

人肉検索の主体が人であるため、毎日の登録者数が4620万人を超えた新浪微博の検索スピードは速い。また、中国版のTwitterといわれる新浪微博には記事のシェア、@機能が備えられているため、情報の伝播と共有は大変便利で検索は加速される。さらに、新浪微博に有名人や企業は実名の登録をするため、大きな宣伝効果を持っている。それで、有名人や企業の実名IDを経由し、より広い範囲で人肉検索を実施することができる。

③ 影響に関する結果

人肉検索の影響は年に関わらず、事件の性質により変わる。侵害程度が一番高いのは悪人処罰型である。悪人処罰型の次は、私怨攻撃型の人肉検索である。

4.1.2 インタビュー調査研究の結論

① 人肉検索依頼前後の態度の変容

事件1：

依頼者は、人肉検索を利用する前は、人肉検索は悪い人の不正行為を公開し、その人を批判する

手段だと思っていた。他の有効活用の方法を全然知らなかった。

人肉検索に依頼を出した後、ネット上のユーザーから誤った情報もあったが、大勢の人の力を借りられたため、人肉検索に対するイメージ、評価は極めて良いものとなった。「心配して、焦ったとき、様々な情報をもらえたことで助かった」と述べた。

事件2：

依頼者は、事件前は軽い気分だったが、事件後は人肉検索の影響力の大きさを痛感したと語っている。「当事者の情報を公開する代わりに、当事者に自首するように説得するか、警察に通報するなど方法で解決したほうが良い」「当事者を批判し、処罰することではなく、今後正しく行動するように導くのは重要である」と考えが変わったと述べた。

② 人肉検索について不備の点に関する認識

訪問した依頼者の言葉によって、以下のように認識したことがわかった。

「人肉検索から得られる情報は多いので、全ての情報の真実性を確認することはかなり難しい」。

「ネットユーザーの過激的な言行、そして、被害者が事件の深刻さを大げさに言うことを防止する必要がある。また、人肉検索は当事者の一生に渡って影響を及ぼす可能性があるため、利用する際は、慎重に、そして真剣的に考えるべきだと思う」。

4.1.3 まとめ

① プラス面とマイナス面

人肉検索のプラス面は、情報共有を可能にすることや、犯罪や道徳的に許されないことを指摘しSNS上で公開できること。そして、不正行為の再発を未然に防止する役目を果たす。

一方で、マイナス面は当事者とその家族の人権やプライバシーが侵害され、生活に大きな影響が出ることである。そのため、人肉検索のプラス面は同時にマイナス面と表裏一体の関係で、悪意の

人に利用される可能性があることを絶えず認識しなければいけない。

② 今後の改善点

一つ目は、インターネットの実名認証が必要である。

二つ目は、人肉検索の情報と依頼を審査する。

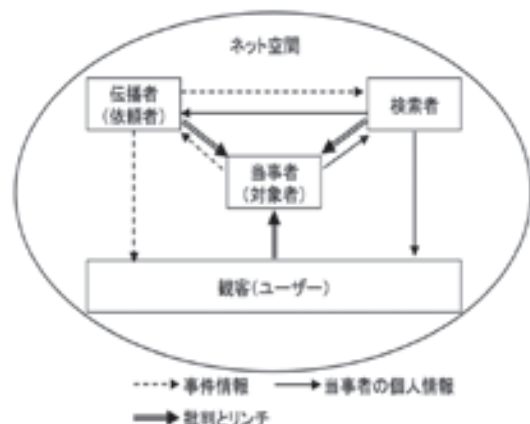
三つ目は、人々の意識を高めることが必要である。

四つ目は、人肉検索に関する法律を改善する。

4.2 モデル化

伝播者（依頼者）は、課題もしくは探したい内容をソーシャルサイトに公開し、賞金を出して、他のユーザーに必要な情報を求める。その依頼内容に対して、知識のある人や糸口を知る人（検索者）はなるべく早めに自分の答えまたは分析を伝播者に送り、それに相応の報酬をもらう。伝播者はいろいろな答えや分析を得、検索者と交流し、最後に一番満足な答えを選ぶ。これが、人肉検索のアプローチである。図1は各人肉検索参加者の関係図である。

図1 人肉検索参加者の関係図



出所：龔旭暁（2015）

引用文献

- 芦葉浪久 (2007) 「インターネットと情報倫理 (8) 第4章 個人情報の保護 (1) プライバシー侵害の意識 (2) プライバシーと個人情報」学習情報研究, 2007年9月, 62-65頁.
- 雨宮俊一 (2004) 「ITサービスの社会的影響に関する考察」電子情報通信学会技術研究報告, SITE, 技術と社会・倫理, 2004年1月23日, 25-29頁.
- 上机美穂 (2012) 「インターネット上の発言による名誉毀損・プライバシー侵害の救済」札幌法学, 2012年9月, 31-55頁.
- 岡本友(智)子 (2006) 「調査報告 インターネット上のプライバシー侵害の問題」広島法科大学院論集, 2006年3月, 129-142頁.
- 戴玉磊・王淑華 (2010) 「社会心理学で人肉検索現象の分析」『開封大学学报』第24巻, 第1期, 2010年3月, 59-62頁.
- 鄭根成 (2010) 「人肉検索的論理反思」『道德与文明』2010年第5期.
- 典典 (2010) 「放大人性的長歌—也談人肉検索」『社会学家茶座』2010年4月29日.
- 富阪聰 (2008) 「中国メディアの『裏』を読む! (第6回) INTERNET 震災後の中国に蔓延する ネット時代の魔女狩り 過激な『人肉検索』」『クーリエ・ジャポン』講談社, 2008年8月1日, pp. 94-97.
- 富坂聰 (2008) 「中国『熱狂の欲望大国』を歩く (最終回) 『ネット世論』が暴走させる『人肉検索バッシング』の次なる標的! — [トウ]小平の『改革・開放』政策から30年, 嫉妬と怨恨が沈殿する “負のエネルギー” が中国社会を変える」週刊ポスト, 2008年7月18日, 48-151頁.
- 西口博之 (2012) 「インターネットを通じたプライバシー侵害: 最近のグーグル検索被害事件に関連して」知財ふりずむ: 知的財産情報, 2012年12月, 7-21頁.
- 聞素霞・喬親才 (2009) 「人肉検索現象の心理分析」『新疆師範学校学报』第30巻, 第2期, 2009年6月, 65-68頁.